

北口番外篇  
P横丁的日乗  
ペンギン堂雑貨店咆哮


「寒かったりそうでもなかったり、相変わらず優柔不断な今年の冬ですね」、「雪が降らないから、江戸一に行けなくて残念でしょう、ペンギンさん」。鐘ヶ淵さんは、僕が雪の夜だけ江戸一に行くことを知っている。「でもそういう決め式、なかなか乙な考えたと思いますよ」、「たまたま大雪の日に行ったらすんなり座れたんで、味をしめてるだけです」。 「ひょうたん島の解体も随分と進んでるようですね」、「更地になると

びっくりするでしょうねえ、あそこに建物がない風景を見たことがないもので」、「そういや大塚に磯崎新設計のビルがあたって小耳に挟んだんですか?」、「え〜っ!名のある建築家の建物は、大塚ビルだけだと思ってましたよ。どこです?」

「話は一気に身近になりますが、ビル解体で閉店した桃太郎茶屋は、宮仲公園通りに引越しますね」、「美容院があった氷屋さんのビルです」、「すぐそばに天下寿司とすしみさきがあって、寿司常とちよだ寿司もあつて」、「脂っぽい飲食店の街に、さっぱり系勢力が来ますか?」焼肉ラーメン勢力に迫る日は来るのか?来ないか?。

バンドライブやります!  
8月24日(土)


あなたのスペース



江東区の楽しい  
美味しい情報がいっぱい

意外と沢山ペンギン! ます

雑貨店



毎月10日ごろ出ますよ

本の雑誌



あなたとわたしの  
演芸の友

東京がわら版

毎月二十八日を待て

編集後記のようなもの  
今号で話した翠江堂の近所はなかなか楽しいエリアで、良質の野菜と果物を安く提供する八百屋・プロデュースとか、めめたおるという不思議な店名の供する美味しいランチャやスイーツ、試飲もできる酒屋・今田商店では落語会もやっています。大好きな可愛い洋食屋もあるけど教えないよ。歩いて探してください。そして、いちご大福もお忘れなく。  
大感謝配布協力  
池之端・古書ほうろろ、雑司が谷・旅猫雜貨店、法善寺横丁・洋酒の店路、目黒・ふげん社、浅草・珈琲アロマ、平井・平井の本棚、神宮前・シーモアグラス、大塚・山下書店。まだ募集中!



版元：東京ペンギン堂本舗  
豊島区北大塚2-26-1-1F

横丁で大きいってどういうこと?

普通〇〇横丁と言えば、路地に毛が生えたような狭い道だろうと思うもの。かのブー横丁もきつと小ぢんまりした趣き深いところに違いない。だから「大」を冠するのが既におかしいのに、「通り」まで付けちゃった大横丁通り実業会は、本郷三丁目駅近く、見目麗しき復興建築エチソウビルのちよい先、本郷通りからひよいと入って、抜ければ壹岐坂が白山通りにぶつかるとちよい手前に入る一本道は、確かに横丁には少し広いけど、

だからって大横丁かなあ。

でも歩道にはプレート街路樹脇根本には鋳物板、街灯にはペナントでアピールする積極派なので、どれどれと歩き出せば、KOKUYOと共に波モダン書体も美しい文具店が大間口を広げ、そっぴいやさっきの古手ビルの有料駐車場の達筆も鮮やかだったなと振り返り、一見新築かと思いきや、どうやら戦前建築のリフォーム直後っぽい様子に気が付いて立ち止まり、店前にパイヤベースの自販機とは面白いと見上げると、そのレストランの建物も、どうやらかなり



いと詣でると、やたら派手に塗り分けた提灯には三河稻荷神社の文字。周囲がマンション群なのは、人気の文京区本郷だから当たり前さ。

でも大横丁は全然当たり前でなく、鯉節屋さんも珍しいけど、軒先で大量に干しちゃう昔ながら風情はもっと珍しかろう。そう思うと妙に飲食店も多いな。本郷通り近くから横道に入ると実験道具などの理科系会社が多いのは、東大があるからかな?ポクシング用品専門店があるのは後楽園ホール間近だからかな?

真っ直ぐ進んでも横道に逸れても、一癖も二癖もある大横丁通り実業会。下り坂の先で東京ドームが輝いてる。

安心設計



コチョウスレドモ  
ウソハツカナイ



年季の入った代物なことが発覚。こりゃ一筋縄じゃいけぬ大横丁だぞ。と脇道を覗くいてみたら、小さな鳥居が佇んでいる。町の守り神に違いな





# 東京駅から 日本一のいちご大福を買いに行く



新有楽町ビルは無くなつたし、大手町ビルはすぐ売り切れるし、結局新川まで行くんだなど東京駅八重洲

てしまえばこっちのもの。でも橋とは名ばかり、真下は高速道路な久安橋を渡ると、ふいにカラスに頭を掴まれた時の記憶が蘇る。ゲームセンターのUFOPキヤッチャーで持ち上げられるぬいぐるみの心持ちって、こんなだろうなって思う。



ら先はもう新川、かつて霊岸島と

口グランルーフに背を向けて歩き始めるいちご大福決死隊。敬愛する村野藤吾先生のダイビルは更地となり、工事中だらけの街で辛うじて生きながらえる八重洲通ビルディングの金文字にエールを送りつつ、並びのペンシルビル群の余命を思い、足元から口を開けるヤエチカノ媚笑を振り切って渡る中央通りだけど、左は高島屋、右は京橋

橋の向こうは八丁堀で、同心も与力もないけど、ビジネスマン&ウーマンが肩で風切る街。でもね、ビルの裏に回ると意外と飲食店があったりして、それがなかなか美味かったりして、そのまま兜町やら茅場町に予定変更なくんてこともまままパあるわけで、それも想定内の屋敷みという鉄壁の防壁策。

八重洲通りのどん詰まり、そんな左党の聖域に、目指す翠江堂がある。ここの一いちご大福が一番だな。なのに結局本店限定黒糖羊羹を買ってどういうこと？まあいいって、食べたくなったらまた来るし。ではこのまま中央大橋渡って佃島を抜け、越中島に向かうかな。



フィルムゼンターと、誘惑の手は私の身体に巻き付かんとする。でも昭和通りを渡っ



ガラスのことなら  
ほぼお任せ

高野硝子店

# 今日も銀座に行かなくちゃ...

雪が降るとよみがえる風景について



座では貴重な子供達の遊び場。楽しい建物では負けぬ三愛ビル

リ口を開ける。上から車の、下から地下鉄の走行音と振動を感じるシネパトスで見る大魔神やガッパやカメラの昭和映画は、最新シネコンのハイテクスクリーンはりの臨場感があった。

ついでうろたうろた



も今やフェンスに囲われ、狍犬の如く鎮座したコイコリンも何処へやら。でも雪のスクリーンはきっちり雄姿を描き出す。



まだ記憶に新

雪の銀座は格別、寒さも時間も忘れて憑かれたように経巡って、手足は冷たくとも心は温かく、まだ足跡無き道を求めるひととき。道端のゴミも工事現場も人並みも白く隠れがちになると、幻か記憶の銀幕か、ふと現れる今は無き風景のかけら。

白いはら名物の掲示板と日本地図もぼんやりと。でも赤地に白文字の可愛い丸看板は降る雪に映えて、ご常連には店内の古式床しきさらびやかを、ついぞ入ることもなかった者には妄想の糧を分け与えてくれるよう。

銀座に積もる程の雪はなかなか降らない。その間に街は想像を超える速度で変貌していく。次に真白き銀幕が訪れる冬は、